

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 静岡県立伊豆総合高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☒ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒 410 - 2401
静岡県伊豆市牧之郷 893
E-mail izusogo-h@edu.pref.shizuoka.jp
Website http://www.edu.pref.shizuoka.jp/izusogo-h/home.nsf/
幼児児童生徒数 男子 435 名 女子 222 名 合計 657 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

①食育・地域振興に係わる学習

【商品開発】(教科の時間)

○ 三島田方法人会青年部より講師招聘し、店舗や商品プロデュース、グラフィックデザインに関する講義や本校生徒による発表を行った。(商品開発に向けた特産品調べ)(特産品を用いた商品案)

○伊豆市商工会主催「い〜ずらフェスタ」出店に向けた宣伝を行った。(F M I S 生出演)

【家庭演習】(教科の時間)

○ 地場産品を使った給食献立の考案

高校生が郷土の地場産品を利用した「給食献立」を考案することで、地場産物への関心を高め、愛郷心を育てることを目的とした学習を行った。コンテスト入賞作品は、地元小学校の給食として提供され、学校給食への地場産物の導入促進につながった。

【生活科学部】（クラブ活動）

- 伊豆市健康づくり食生活推進協議会の講師招請による「減塩スキルアップ事業」
昨年度2回実施した「地域の伝統食を学ぶ」事業の3回目。
地元の食生活推進協議会の方々を講師としてお招きし、地元食材を使った減塩食についての講義と調理指導をしていただいた。
- 文化祭での「イズシカバーガー」の考案・販売
伊豆半島は増えすぎたシカやイノシシの食害により、農作物や山の草木に深刻な被害を受けている。この対策として伊豆市内では年間2,500頭以上のシカやイノシシを捕獲している。いただいた命に感謝しながらイズシカを食べることで環境保全に繋がりたい。というコンセプトの下、イズシカ肉を使ったバーガーを考案し、文化祭において限定販売を行った。

② ジオパークに係わる活動

【自然科学部】（クラブ活動）

- ジオカルタの改良に取り組み、静岡県教育委員会が主催する富士山フィールドワークに参加した。

【2年生を中心としたジオパーク学習活動】（教科の時間）

- 総合学科2年生を対象に、ジオパークを題材にした授業を実施した。伊豆半島ジオパークについての理解を深め、班でジオパークに関わるアイデアを画用紙にまとめ、クラス内で発表した。代表者の作品は、沼津キラメッセで行われた「科学と技術のひろば」に出展し、学校のジオパーク学習を紹介するパネルとともに来場者に紹介した。
- 工業科2年生を対象に、LHRでジオ学習を実施した。NPO法人ホールアースから講師を招き、静岡の成り立ちと富士山について、様々な教材やスライド等を用いた講義や体験活動に取り組んだ。
- 2年生全体でジオツアーを実施した。体育館で事前学習会を行い、生徒約210名が、伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」と伊豆市内3か所のジオサイトを訪れ、実際の風景を見ながら担任や担当者の解説により、その風景の成り立ちや意味を理解した。
- 2年生全体の修学旅行に向けて、島原半島ジオパークの事前授業を行った。伊豆半島ジオパークと島原半島ジオパークの比較、雲仙普賢岳平成大噴火、修学旅行で訪れる場所や施設について学んだ。
- 2年生は、修学旅行で島原半島を訪れ、クラスごとジオツアーに参加した。現地ジオガイドによる解説を聞きながら各地を見学し、人と火山の関係や火山噴火災害について学んだ。
- 総合学科1年生を対象に、総合的な学習の時間にジオ学習を実施した。NPO法人ホールアースから講師を招き、静岡の成り立ちと富士山について、様々な教材やスライド等を用いた講義や体験活動に取り組んだ。

③地域振興に係わる学習

【オリンピック・パラリンピック教育】(総合的な学習の時間)

- 保健体育科の授業において、実施競技についてグループ学習・発表を行った。また、資料映像を用いた学習や日本人選手の活躍についての学習を行った。
- 総合学科生徒は、「総合的な学習の時間」において調べ学習を実施し、自分が興味を持った競技についてレポートを作成した。また、来年度に実施する予定のプロジェクト学習につなげるための情報収集を行った。
- 工業科生徒は、伊豆市等からの作品製作依頼を受け、修善寺駅構内に設置するカウンタダウンボードや、プランターボックスの製作を行った。また狩野川公園内に設置する伊豆サイクルボードの製作も行った。課題研究では、3DCADを用いた自転車玩具の製作など、オリンピック・パラリンピックに関連したテーマを題材とする生徒も見られた。

【アスリートによる講演会】(総合的な学習の時間)

- パラリンピック自転車競技日本代表の藤田征樹氏をお招きし、「2020 パラリンピックに向けて」を演題とした講演をいただいた。パラリンピックの歴史や実情、選手の競技にかける想い、目標を設定しそこに向かう心の整え方など、多岐にわたる分野の貴重なお話をいただいた。

【競輪学校、サイクルスポーツセンターとの連携】(総合的な学習の時間)

- 2・3年生選択科目「ライフスポーツ」選択者に対して、サイクルスポーツセンターベロドロームにおいて、自転車競技に関する授業を学年ごと5回、計10回実施した。サイクルスポーツセンター職員指導の下、オリンピック会場となるベロドロームのコース内で走行、タイム測定を実施した。日本代表選手や海外選手の練習走行を間近に見ることも多くあり、本物に触れる機会にも恵まれた

【修善寺大掃除】(特別活動)

- 毎月1回、修善寺駅周辺の美化・ゴミ拾い活動を実施した。通算70回を超え、7月には伊豆市長より感謝状をいただいた。また、1回の参加人数も100人を超えた。地域の老人会の方にも参加していただき、交流の場となっている。

【ラジオ出演】(特別活動)

- FM I S みらいズステーションで伊豆総合の番組「IZUSO GO!!!」に出演。

【伊豆の高校生がつくるフリーペーパー】(特別活動)

- 地元伊豆の街、店を紹介するフリーペーパーを三島市役所や地域の社会人の方と作成した。取材に出向き、インタビューや写真を撮って、紹介記事を作成し、紙面の構成も社会人の方からアドバイスをいただき、生徒たちで考えた。伊豆箱根鉄道の各駅で配布、伊豆「踊り子号」車内で宣伝も行った。

【伊豆の活性化意見交換会】（特別活動）

○伊豆市役所の方と伊豆の活性化について地図等を用いながら意見交換を行った。また、高校生の自分たちにできそうなことについて意見を出し、市役所の方からアドバイスをいただいた。

【遠隔通信システムを利用した生徒間交流】（特別活動）

○土肥分校の生徒会や浜松湖北高校の生徒会と文化祭や学校の特色ある授業、取り組みについて紹介し合った。

【インターアクトクラブ】（特別活動）

○地域のロータリークラブの方とポリオ撲滅募金を行った。また、修善寺大掃除やボランティア活動、地域との関わりについて発表を行った。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD の具体的な学習方法として、特に総合学科１年生の「産業社会と人間」、工業科１年生の「キャリア設計Ⅰ」総合学科２年生の「総合的な学習の時間」、学校設定科目「商品開発」・「地域と産業」、工業科の「課題研究」において具体的に実践した。

生徒会活動や部活動においても、地域の魅力や課題を積極的に見つけ、地域を活性化させるよう企画・実践し、地域に根ざし貢献する活動を行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体として取り組んでいるジオパーク学習を始め、生徒が地域の魅力や課題を知り、その問題を生徒自らが解決し、地域振興・地域連携等に関する具体的な方策を提示するという学習を計画的に実践した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教職員がユネスコスクールの取り組みを知り、他の学校の取り組みなどを理解することが必要だと感じる。また、生徒の学習時間を確保し理解を深めることも大切になってくると考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校の取り組み内容は、学校のホームページやフェイスブックに発信し、生徒の活動が掲載されるように努めた。また、ラジオ出演を積極的に行い、生徒の活動について情報発信に努めた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

静岡県教育委員会、伊豆ジオパーク推進協議会、伊豆市教育委員会、地域NPO等と連携した事業・企画をおこなっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

交流を準備する時間、人手がなく、他のユネスコスクールとの交流は行うことができなかった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

生徒は、ジオパーク活動や地域清掃活動などを通じて生徒が主体となって地域に貢献する意識が高まっている。教職員は、地域の教育機関などと連携して事業・企画を積極的に行い、さまざまな機関と関わることで教員自身がより積極的に取り組み、生徒により指導・支援ができるようになった。地域・保護者には伊豆総合高校の取り組みをラジオや広報を通じて理解してもらい、地域から積極的に連携を求めてくることが増えた。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

これまでの活動を継続しつつ、地域と連携して活動を行っていく予定である。東京オリンピック・パラリンピックに向けて、授業や生徒会活動を通して生徒が主体的に取り組むことができるよう計画を進めていきたい。